

令和2年度 みんなで支える森林づくり木曾地域会議

(第1回) 実施概要

1 日 時 令和2年9月2日(水) 13時40分～16時

場所 現地及び上松町公民館 大会議室

2 出席者

【委員】

大屋誠委員、坂家重吉委員(座長)、田中淳司委員、田中憲江委員、脇坂智恵子、清水紘一委員、長瀬恵敏委員、古畑正美委員、半場純孝委員

【木曾地域振興局】

中坪局長、春日林務課長、稲村企画幹兼林務係長、中宿課長補佐兼普及林産係長、岡田鳥獣対策専門員、山内森林保護専門員、上野担当係長、山岸主任、渡澤技師

【報道】

中日新聞

【傍聴】

なし

3 実施内容 13時40分～16時

- (1) 開会
- (2) 中坪木曾地域振興局長あいさつ
- (3) 現地視察調査

○ 上松町「寝覚の床」【視察資料】

「令和元年度観光地等魅力向上森林景観整備事業」で整備した「寝覚の床」を視察し、上松町の担当者の方から事業概要の説明をいただきました。

「寝覚の床」は、大正12年に国の名勝に指定され、日本遺産である木曾路の観光スポットとして知られています。

近隣のドライブインやJR中央線の車窓からの眺望が魅力でしたが、樹木の生長とともにその眺めが失われ、眺望景観の整備が長年の課題となっていました。

今回の森林整備は、JR東海や上松町等が連携して、民間事業や森林税活用事業等を効果的に活用して実施し、本来の景観を取り戻



観光地の景観形成のための森林整備の状況



改善された「寝覚の床」の眺望景観

すことができた事例となりました。

また、一時途絶えていた「寝覚の床」列車通過時の車内案内放送も復活しました。

日中の下り列車では、「間もなく木曽八景の中で最も景色の良い寝覚の床が見えてまいります」などと案内があります。

この視察調査で、今回の事業に至るまでの経過説明や一目瞭然の景観に、委員の皆さんも納得いただいた様子でした。

(4) 会議事項

- ① 令和元年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実績について【資料1、2】
- ② 令和2年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実施内容について【資料3、4】
- ③ 長野県森林づくり指針の計画期間の見直しについて【資料5】

事務局から、「令和元年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実績について」資料1及び2、「令和2年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実施内容について」資料3及び4、「長野県森林づくり指針の計画期間の見直しについて」資料5により説明し、ご質問やご意見を伺いました。



会議の様子

【委員の皆さまからの主な意見等】

[令和元年度 実績関係]

- 森林づくり推進支援金の南木曽町の実施事業の中に対象者として南木曽町中学校生徒とあるが、どんなかわりがあるのか。
→ 受益者として掲載していますが、事業実施にあたっては特に関りはありません。

[令和2年度 実施内容関係]

- 木曽建設労働組合は職人の集まりで、現在、高齢化が進み若い人も入りたがらない業界のため、職人（大工）が少ない状況にある。大工を育てるには10年かかることから、小中学校の段階までに、職人へ目を向けさせないと、高校では遅いと思っている。このため、県担い手育成事業を展開して、県全域で小中学校に出かけて行き子どもたちに職人の仕事の魅力をPRしている。しかしながら、関わる大工さん等の費用が不足しており、労働組合で負担している実情がある。職人がいなくなることはないように育成への

取組みへの支援をお願いしたい。

- 大工さん養成の取組みは、一部森林税を活用してスタートしましたが、建設労連の要請に基づいて建設部で単独で予算化した経緯があります。この状況については本庁担当部署に伝えます。
- 松くい虫被害木利活用事業の関連で、今、松本あたりが大変な状況ですが、木質バイオマス発電への利活用は非常に良いことだと思う。被害木の移動はできるのか、実態を教えてください。
- 松くい虫の被害木は、その場でチップにする場合は移動の制限はありませんが、丸太のままで移動する場合は、未被害市町村を通過することを避けたり、カミキリムシの羽化脱出の時期を避けて運搬し速やかにチップ化することが必要となります。

[森林づくり指針関係]

- 現在、企業等でも SDGs (持続可能な開発目標) を意識した計画等が策定されている。今回の指針の見直しの中には絡めていくのか。
- しあわせ信州創造プラン 2.0 には、SDGs を意識した中で策定されていますが、この森林づくり指針を策定したときには、SDGs の考え方が無かったことから、この見直しにどのように絡めるのか承知しておりません。SDGs を意識した見直しをしてほしいという意見があったことは担当部署に伝えます。
- 森林組合の理事として感じることは、林業に携わる人が少ない中で、どうやって携わる人材を育てていくかの観点を指針の中に打ち出してもいいのではないかと。また、林業人材を増やすためには、いかに生涯所得を上げるかが重要と感じている。

[その他関係]

- 権兵衛トンネルを使う者とすれば、7月豪雨災害の国道361号線の災害の状況が気になるので、分かる範囲で教えてください。
- 木曾町神谷付近で複数箇所被災しており、通行止めが続いています。山林からの土砂流出箇所については、当局林務課の治山事業で谷止工等の設置をするため、国との協議を進めています。また、国道19号の神谷の信号から1kmくらい入ったところの崩壊箇所については、地すべり的な状況が見られ、現在、調査中で、早期復旧に向けて道路管理者である建設事務所が対応を検討しているところです。
- ナラ枯れが今年は大変拡大している。太くなった木も多く資源としてもったいないので、木質バイオマスとしての利活用を考えてほしい。
- (ナラ枯れのメカニズムの説明) 全量駆除は難しいので、ライフライン等に関連した箇所の駆除を中心に対策をしてまいりたい。また、利活用に係る事業に組み入れていける様、要望を担当部署に伝えます。

- 若い人の山離れで、森林税を使えるのに使っていないのが課題だと思う。
- 森林環境税について説明してほしい。
- (森林環境税、森林環境譲与税、森林経営管理制度について説明)
- 民有林の立木の価値が大幅に低くなっている。若い世代も山に関心がなく境も判らない状況になってきている。森林を補助金で面倒見ていくという方向には疑問を持っている。それより木の良さを子供たちに知ってもらって、将来、木を使い、価値を上げていくことが大切で、木を使ってもらう環境づくりが重要だと思っている。ナラ枯れ・松枯れの処理費用は処分するお金で未来志向ではないので、未来志向でお金を使ってもらいたい。
- 森林環境譲与税の使い道で、大桑村はナラ枯れにも使っていくと聞いたが、できれば森林経営管理制度で、個人有林の手入れが進むことを期待する。
- (森林所有者の責務と森林経営管理制度はセーフティーネットであることを説明) 森林環境譲与税は、まず森林経営管理制度に優先的に活用いただきたいと町村にはお願いしています。

(5) 閉会